

議長記者会見（第27回）会見録

日時：平成29年12月19日（火）

午後2時15分から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う米澤議長（右）と山口副議長（左）

1 今定例会を振り返って

皆さんご苦労様でございます。おかげ様をもちまして、12月定例会も先ほど無事終了いたしました。これも皆様方のご理解とご協力のおかげだと思っております。今年は、地方自治法施行70周年ということでございました。そういった意味では、県議会議員3名を含めて7名、そして、6団体の皆さん方が表彰されたわけございまして、私も、この式典は東京で行われたわけでございますけれど、出席をさせていただきました。地元からは福村県議、稲村県議、向出県議もご出席されて、その大臣表彰の伝達式が先週の13日に行われたわけでございます。本格的な人口減少時代を迎えておりまして、そういった中で、地方自治の果たす役割というのは今後ますます高まっていく、そういう中で、県議会といたしましても、地方自治の発展に、また今後とも全力で取り組んでま

いりたいと感じた次第であります。

さて、先ほど終わりました今議会でございますけれど、新県立中央病院が来年の1月9日に開院するわけでございますが、それに伴いましての年末年始の移転作業の取り組みや病児保育、それからドクターヘリの運行等についても、今議会でいろいろ議論をされたところでございます。

また、小松空港の国際化推進につきましては、タイ香港での国際定期便の就航に向けた取り組み、それからタイガーエア台湾、これらの定期便継続に向けての支援策などについても質問がなされておりました。

このほかに働き方改革や移住定住対策、そして県産材や林業についても質問がなされたわけでございます。そういった意味では、今後の石川県政の発展に、何らかの布石を打てたんじゃないかな、そう感じた議会でございます。

意見書につきましては、先ほど、（ご承知のとおり）食品衛生管理国際標準化を求める意見書が可決されましたので、県議会といたしましても関係行政庁のほうに提出することにいたしております。

それから、話題の、一番の関心事項でございますけれども、定数選挙区検討懇談会でございます。先ほどの福村県議の提案説明にもありましたとおり、昨年12月から10回にわたりまして、いろいろと議論をしていただき、12月15日に先ほどの結論の答申をいただいたところでございます。これにより、議員一人当たりの最大格差、いわゆる一票の格差が2倍を切ることになりましたものですから、県民の意見をより県政に反映させるためのふさわしい選挙区議員定数になったんじゃないか、そういうことを感じているところでございます。

そして、もう12月も末でございますけれど、私ども、今年1年を振り返ってということ所で所感を述べたいと思います。3月17日に議長ということで就任させていただきました。隣の山口副議長も同様でございますけれど、とにかく今年は二人、それぞれ議会の代表として、また、山口副議長のお力添えを賜りながら、どうかこうにか二人三脚でこなしてきたな、そういうような1年だったと思っております。毎日毎日の日程に忙殺されながら、そして円滑な議会運営、これをいかに図っていくか、そういうこともいろいろございましたけれど、どうかこうにか、この12月を迎えたなという感じがするわけでございます。

今年1年の主な行事といたしましては、6月に皇太子殿下を本県にお迎えをいたしまして、みどりの愛護のつどいが開催されました。議会の代表として、二日間殿下のお供をさせていただきましたけれども、大変貴重な経験をさせていただきました。実は、11月9日に秋の園遊会が開催されまして、私のほうにも案内が来たものですから、出席をしてみいました。その際に殿下のほうから、私のほうにみどりの愛護のつどいではお世話になりましたというお礼の言葉も賜ったところでございます。また、一段と感激を新たにしたところでございます。

それから6月議会は、スポーツ推進条例。これも議員提案条例でございますけど、可決されまして、7月4日から施行されたわけでございます。条例では、スポーツをする、観る、支えるということを基本理念にしながら、スポーツ活動のこれからのますますの発展をとということで、スポーツ推進条例ができたわけでございます。そういう中で、今年1年間本県出身のスポーツ選手の活躍を見ておりますと、8月には、レスリングの川井梨紗子選手が、世界選手権で見事優勝されましたし、そういうようなこともあり、スポーツ特別賞の贈呈式に参加させていただきました。そのほか11月には、トランポリンの世界選手権で岸彩乃選手が、女子個人で日本勢初の銀メダルを獲得したわけでございます。けがを乗り越えての銀でございました。これから行われます東京オリンピックに向けて、本当に期待がされる選手でないかなというふうに思っております。また、プロ野球のほうでも、中日ドラゴンズの京田陽太選手が、県出身では初の新人王を受賞されまして、そういった意味では、条例の制定にあわせて、こういう素晴らしい県選手団が活躍されたということは本当に素晴らしいことですし、子供の健全育成にも本当に模範になるかな、そういう感じがするわけでございます。今後も、このようなトップアスリートがもっともっと誕生していただけるように、県議会としても頑張っていかなければいけないなと思っております。それと同時に今年の愛媛国体では、石川県の活躍された選手が本当に多くございまして、28位と選手たちの健闘が目立ったわけでございますけれど、この選手団にも、ぜひともエールを送りたいなと思っております。

そして、北朝鮮の問題でございます。核実験や弾道ミサイル、これらの発射を繰り返してきた北朝鮮であるわけでございますけれど、まずもって本県にとってみれば、日本海の大和堆での違法操業、この問題は本当に大変な問題になっております。11月に入ってから北朝鮮船籍の木造船が大変たくさん漂着するなど、非常に石川の漁業者にとっても大きな影響を与えているんじゃないか、そういうふうに危惧しているところでございます。県議会といいますか、こちらのほうも7月の全国都道府県議会議長会で、今まで、外国漁船による違法操業、これについての対策を提案しました。ところが、当時は中国や韓国のいわゆる尖閣諸島などの関係のものが項目として挙がっていたわけでございますけれど、私のほうから、強く、大和堆の北朝鮮問題、これをぜひ、全国議長会でも取りあげてほしいということで要望させていただきました。いろいろ議論を重ねましたけれども、北朝鮮漁船の対策についても明記をしていただいて国のほうに要望したわけでございます。その後、全国知事会の谷本知事からのああいう要請もありますし、国会の先生方と力を併せて一日も早くこの北朝鮮問題というのを解決する努力をぜひしてほしい、そういう要望活動をしてきたところでございます。

そのほか、10月には、私、ブラジルのほうにも訪問させていただきました。これは、石川県人会の80周年記念式典、それから石川県会館の12周年だったわけでございますけれど、そういう記念式典のほうにも参加をさせていただきましたし、それから訪問

した際、在サンパウロの日本国領事館も訪問しました。総領事は、この時入れ替えの関係でいらっしゃらなかったんですけど、代表領事のほうは、本当に日系の皆さん方、そして石川県出身者の方々がものすごく現地で活躍されていると報告を受けまして、非常に我々も頼もしく思った次第でございます。と同時に、私的なこととなりますけれども、領事館に行きましたら、なんか知ったような顔の人がいまして、ちょうど私の家の3軒隣の娘さんが、実は大使館といいますか総領事のほうに務めておられまして、その方が、向こうのほうの政治経済について、私らにレクチャーしていただいたんですけど、この地球の裏側で、まさか、地元の娘さんにお会いすることができた、こんなことがあるんだなとつくづく感じたブラジル訪問であったわけでございます。

それから、韓国の全羅北道議会でございますけど、平成25年の11月から友好交流に関する合意書を締結しまして、友好交流を続けているわけでございますけど、11月にファン議長をはじめ韓国の全羅北道議会議員団の訪問が県議会のほうにございました。10名の議員の方々がお見えになったわけでございますけど、本県のいろんなところを訪問していただき、それぞれ意見交換もさせていただきました。これからも、国レベルではいろんな問題を抱えていることは十分承知しているけれども、地方議会どうしは、もっともっと友好親善に協力していこう、そういうようなことを誓い合ってお別れをしたわけでございます。

そして、10月には、突然、衆議院の解散がございました。9月まで我々の同僚でございました西田先生でございますけど、満を持して、退路を断って出馬をしていただきまして、おかげ様を持ちまして、国政の舞台で活躍できるようなことになったわけでございます。これからの活躍をますます期待をすると同時に、県政発展にもこれまで以上のご尽力を賜りますようにと考えているところでございます。

それから、今議会の冒頭、議員互助会の研修会という、実は、しばらくこういう研修会をやっていなかったわけでございますけど、せっかく議員の互助会という制度がございますから、研修会等をやろうということで計画をいたしまして、今年、珠洲市で行われました奥能登国際芸術祭、その実行委員長でありました泉谷市長さんにお越しをいただいて、芸術祭について、私も実は鑑賞してきたんですけど、本当にさいはての市で、あんな素晴らしい芸術祭を開催できたこと、苦労話、今後の取り組み状況等々について、市長さんからいろんなお話を聞けたかな、そういう感じではよい研修会であったな、そういうふうに思っているところでございます。

以上、3月の議長就任以来、冒頭にも申し上げましたとおり、毎日日程に追われながらの議長職でございましたけれども、隣にいます山口副議長の力を借りながら僕の足りない分は山口副議長にフォローしていただきながら、どうにか年の瀬を迎え、新しい年を迎えられるな、そういう感じを強くしているところでございます。私のほうからは以上でございます。

山口副議長

私、特別何もないんですけれど。副議長ということでありまして、借りてきた猫の気持ちがよくわかる一年だったかなと思います。ご案内のとおり議長さんは、大変温厚でやさしい方ですから、一回もお叱りを受けることがなかったんですが、役に立てたかどうか、足手まといじゃなかったかなというふうに反省をいたしております。残されたあとわずかでございますけれども、できるだけ議長の足手まといにならないように、努めて参りたいなと思っております。

特に、議長がおっしゃったこととあんまり中身については変わったことはありませんので、ただ一点だけ、定数問題なんですけど、ちょうど、珠洲市、鳳珠郡が合区になるということで、次、どなたが出てこられるかわかりませんが、選挙区が広がるということ、もう一つは、珠洲市と穴水町、今まではそんなに交流といいますか、市民町民同士のそういうものもほとんどないような環境でありますので、我々の選挙区だということで、お互いに力を合わせていかにやならんということで、大変難しい課題じゃないかと思っております。今では、人口減少であり、我が身のことばかり考えていられますので、これからは奥能登全体のことを考えますと、合区もいたしかたないんじゃないかなと思っております。とにかくどなたが出られようと、やっぱり私たち自民党としては、その席をなんとか堅持したいなと思っております。

西田さんにつきましては、北村さんの突然の不出馬ということで能登の県議員さんみなさん驚きでありまして、そんな中で不戦敗はないということが最初でありまして、では、誰が出れば一番勝負になるかという点で考えますと、皆さんの意見は西田さんしかいないんじゃないかということで、西田さんになんとか出馬してほしいという依頼をしたのは事実でございました。紆余曲折、いろいろあったかと思っておりますけれど結論的には大変厳しい選挙でありました。しかしながら、首長さんも議長さんも一致団結して何とか当選することができたということで、私は今年これが一番大きな課題だったかなと思っております。

奥能登におりますと、私達も金沢市能登町になりたいなあというような、すべて金沢中心といいますか、そういうことを感じるが多うございます。仲間の議員さんとか他の議員さんにおっしゃっていただいておりますが、石川を良くするときには、能登を良くしにやならんということで、以前のように、今の知事は能登ばかりという発言をする議員さんは一人もいなくなりました。そういう意味で、これからは、奥能登、能登に何をすれば、過疎化や少子化をストップできるのか、そんなことで今まで以上に能登に対してご支援をいただけるような環境づくりを自らもやっていかなければいけないんじゃないかと思っております。とにかく猪が増えて、北朝鮮からミサイルが飛んできて、そんなことを考えますと、先ほど、奥能登の芸術祭の話がありましたけれど、私この開会式に行っておりまして、仕掛け人の方がこんな話をされておりました。芸術は

アートだと、祭りは祭だと。今やらないと、アートの祭りになってしまうということで、そういう危機感といいますかね、奥能登2市2町全部その危機感を持っております。でも、それをどんなふうに表示しているのかということになりますと、私は、まだまだ2市2町が、もっと互いに協力し合うところは協力し合う、切磋琢磨するところは切磋琢磨するというので、もう少し突っ込んだ議論をしてもいいんじゃないかなと思っております。

明日は奥能登県議3人と市町の議長さん4人とで会合を持ちます。その中で、そういった前向きな意見が出ることを今期待しているんですが、ただ、言うは易く行うは難しで、なかなか効果、成果は出るかどうか知りませんが、まず、何でもひとつ挑戦してみなきゃいかんということで、私は、一番今思っているのは、奥能登には4つの公立病院があります。お互いにお医者さんの確保なり看護師の確保というのは、今までも厳しかったんですが、これからますます厳しくなってくると思います。

そんなことを考えますと、何とか能登空港の近くに4つの病院を一つにする。そういった奥能登総合病院的なことにならないかなと思っております。そうしないと、本当に安心安全な地域からは離れていくんじゃないか。もう一点は、ドクターヘリの導入が決まりました。でも、私の考え方では、金沢にドクターヘリの基地を置く必要があるのか。金沢ですと、救急車でどれだけでも間に合いますし、加賀市は加賀市で立派な病院もありますし、交通機関も発達しております。やっぱり、能登病院あたりにヘリポートを作っていて、1分でも2分でも早く奥能登の緊急医療に対応できるようにしてもらえれば有難いなと、初めからそんなことを言っても現実になりませんが、導入をきっかけに、またそういうことも強く訴えていかなければいけないのではないかなと思っております。

日本は、高齢化しております、この前、タイに行って来たんですが、私、タイへ30年ほど前に行ったことがあるんです。雲泥の差ですね、その発展というのは。もう一つは、やっぱり国民が若い。まだまだ未完成でありますけれど、若いエネルギーを感じて、国のこれからの発展が期待できるなという感じを持ちました。そんなことを思いますと、日本は若者が減少しておりますので、いつまでも先進国と言ってられない状況がこれから出てくるんじゃないかな、本当にこの少子化対策というのは日本の最大の課題と言ってもいいんじゃないかなと思います。

とりとめのないことを言いましたけれども、自分としてまだまだ思っておりますのでお許しをいただきたいと思っております。

2 質疑応答

記者

副議長に一点お聞きしたいのですが、明日、お会いするのはどなたとどなたが集まられる。

山口副議長

宮下県議と平蔵県議と私と、それから輪島の議長は椿原さん、能登町の議長は、向峠さん、珠洲市の議長さん。

記者

県議3人と。

山口副議長

議長さん4人です。

記者

輪島、珠洲、能登、穴水。

山口副議長

穴水は加世田さんです。

記者

何時に、どこでやるんですか。

山口副議長

5時半か、6時頃じゃないかな。手帳を見ないとはっきり言われなけれど。

記者

こういう場は初めて。

山口副議長

初めてだと思います。議員と首長さんの会合は、ときどきあったんですけど議長さんとは。

記者

そういう場を持って、奥能登地域の活性化というか、地域広域を超えたような地域づくりについて議論を交わしていくというような。

山口副議長

まだ、中身は私わかりませんが、私はそういうテーマで進んでほしいなと思って。一番最初は顔合わせですので、どんな内容になるのか。私らは呼ばれたほうなので、主催者じゃないもんですから。

記者

主催者はどなたですか。

山口副議長

議長会のどなたかわかりませんが、おそらく、輪島の椿原さんじゃないかと思うんですけど。

記者

奥能登議長会というのがあるんですか。

山口副議長

今まで、なかったんですけど、今作ったんだと思います。

記者

輪島の椿原さん。

山口副議長

自慢して申し訳ないんですけど、能登に何にもないもんで。

記者

県立病院もないですよ。病院は公立ですけど、県立の病院もない。

山口副議長

県立にしていただければそれに越したことはないですけど、まず、それはあり得ないと思いますんで。

正直言って、道路もたくさんあるんですよ。主要地方道もあれば、国道もあれば、一般県道もあれば、その病院を一つにすることによって、その道路の整備も今より加速して進めてもらえるんじゃないかなという期待感もあるんですけど。

記者

議長、一つ。議長会で北の船の対策について提案したのは、これ何日に行った議長会。

増田事務局長

7月の委員会ですから、19日

記者

7月に行った。

米澤議長

7月19日。

記者

当初はそこに北に関する文言が入っていなかったけども。

米澤議長

うん。入っていなかったんです。でね、とにかく北朝鮮の違法操業について、とにかくこれも大変重要であるし、すぐ早急に手を打たなきゃということで、申しあげましたところ、事務局にしたら、予算はちゃんとつけてありますと言うわけですよ。どこにあるんですかと聞いたら、尖閣諸島の中国や韓国の関係の例の船、船団が来ていた関係、それとこれは別でないですかと話をしました。随分、向こうの事務局とも何度も意見をすり合わせをしました。

記者

すると、対国への要望書を全国議長会として、

米澤議長

そうです。提案書を作るんです。

記者

要望書じゃなく提案書ですか。提案書に明記していただいたということで。

記者

先ほどの議員定数・区割り話で、先ほど認められた直後に聞くのも何なんですけれど今後の課題みたいなものは議長のほうで何かありますか。

米澤議長

今、決められたばかりですからね。とにかく条例は可決されましたから速やかに執行すると。ただ、今、山口副議長さんがおっしゃたとおりですよ。珠洲市と合併したところというのは、本当に範囲が広うございますからね。確かに候補者になれる方々は大変な選挙をしなければいけないという感じを強く持っております。ただ、福村会長の議案説明のとおり、法的に合区、選挙区が見直しされることになれば、また厳しくなりますから、そこで、やはり、それぞれの町や市の要望活動の窓口となる議員も必要ですから、万が一強制合区になれば、例えば一人区になる可能性もあるわけですね。そういった意味では、地元のいろんな要望、あれだけ広いエリアになってくるからなかなか大変ですけど、議員定数を2名確保できたというのは大きいかなと思っております。

記者

わかりました。